

◆ エレベーターの停止

地震の揺れが一定の基準を超えると、装置が作動してエレベーターは一番近い階に停止します。

過去の震災では、広範囲で多数のエレベーターが停止したことで復旧までに長期間かかったと報告されています。

エレベーターが停止している間の移動は階段に頼らざるを得ず、高層階に居住する人ほど水や食料など物資の運搬が困難になります。発災後に何度も移動しないですむよう、備蓄品を多め(7日分以上)に準備しましょう。



◆ 港区防災ラジオ

区は、災害時の情報を防災行政無線で放送していますが、集合住宅の遮音性の高さや強い風雨などが原因となり、放送がご自宅で聞こえない場合があることから、室内で防災行政無線の放送内容を聞くことができる「港区防災ラジオ」を希望する世帯に有償で配付しています。詳しくは、港区ホームページをご覧ください。



港区防災ラジオの申込みについて

◆ 家族や大切な人との連絡方法 (安否確認)

災害時は通常の通信手段が使いにくくなります。複数の連絡手段を事前に知っておきましょう。

- ① 災害用伝言ダイヤル
- ② 災害用伝言版

171

web171

もしくは

各種携帯キャリア



災害用伝言サービスの利用方法について

災害用伝言サービスは、毎月1日、15日に体験できます。詳しくは、総務省ホームページをご覧ください。

港区と港南防災ネットワークからのお知らせ

港区では、都心南部直下地震が最も大きな被害をもたらす地震になるといわれています。港南地区では災害発生時、自宅に被害がない場合、**在宅避難を原則**として周知しています。そのため、日頃から災害に対する備えを十分にすることが必要です。いざ災害が起きた時にあわてずに行動するためにも、ぜひ、ご一読ください。

令和8年 港南防災ネットワーク

「港南防災ネットワーク」について：

港南防災ネットワークは、区立港南小学校区域の防災住民組織として、平成9年に結成されました。港南地域の防災に関する意見交換を行うとともに、地域の実情に合った防災対策の検討や、防災訓練の計画・実施などに取り組んでいます。



港南防災ネットワークホームページ

地震発生時の避難の流れ

①地震発生！



②家が無事



③家が危険



そのまま **在宅避難**



区民避難所



親戚・知人宅



避難所に行く時など外出する際は、電気復旧時の「通電火災」を避けるため、
①ブレーカーを落とす ②使用中の電気機器類のスイッチを切る ③ガス漏れや配線器具の損傷の有無などの安全確認をしてから機器を使用する を徹底しましょう！

在宅避難とは

(災害発生時、自宅に被害がなければ避難所に行かずに
自宅で生活を続けること)

区では、自宅に被害がない場合、在宅避難を原則として周知しています。

避難所は居住スペースにも限りがあり、トイレ、プライバシー、健康管理や衛生面の問題があるため、自宅に住み続けられるのであれば、在宅避難でライフラインの復旧を待ちます。

そのためにも、各自で**食料・水・携帯トイレ**は最低でも**7日分以上の備蓄**をしましょう。

他にも懐中電灯、ラジオ、ポータブル蓄電池、寒さ暑さ対策を備えておくことをオススメします。また、服用できないと困る常備薬も備蓄しましょう。



区民避難所とは

(災害による家屋の倒壊・焼失等で被害を受けた人の
一時的な生活場所として開設)

港南防災ネットワークでは、

「災害による家屋の倒壊・焼失等で被害を受けた人の一時的な生活場所」

として、以下2つの区民避難所(地域防災拠点)を開設、運営します。

万一、住居が大きな被害を受け自宅で生活できなくなった場合は、**最寄りの避難所へ避難してください。**



① 港南小学校 (所在: 港南4-3-28)

② 港南中学校 (所在: 港南4-3-3)

区民避難所は港南防災ネットワークを中心とした、区民(避難者・在宅避難者)による避難所運営組織が主体的に運営することを基本とします。
ご協力をお願いします。

港南防災ネットワークを中心に、地域住民みんなで協力し合いながら、円滑な避難所運営を行いましょう。



在宅避難と避難所生活の違い

項目	在宅避難	避難所生活
判断基準	自宅が安全	自宅が危険
環境	住み慣れた自宅	多くの人と共同生活
プライバシー	確保しやすい	確保が難しい
ストレス	少ない	慣れない環境のため大きい
食料・物資	自分にあつた食品等を備蓄しておく	避難所の備蓄食料が配布される
感染症リスク	低い	集団生活のため高い
衛生面	マスクや消毒液等を準備しておく	当番制で清掃をするなど対策が必要
トイレ	携帯トイレを備蓄しておく	待ち時間が発生し臭いも厳しい
ペット	一緒に過ごせる	決められたルールに従う



避難所開設初日の食事のイメージです。
初日は水やライスクッキーの配布のみを想定。



トイレ・ゴミ問題

災害時には断水や排水管の損傷により、自宅のトイレで水を流せなくなる可能性があります。その状態でトイレに水を流すと、汚れた水や汚物が下水道まで届かず、建物内に逆流してしまうかもしれません。配管の無事が確認されるまで、**トイレは水を流さず災害用の携帯トイレを使用しましょう。**

また、**ゴミの収集も平時とは異なるスケジュールや方法で行われることは十分に考えられます。「におわないゴミ袋」等を購入し、携帯トイレで使用したものはまとめてベランダで一時的に保管しましょう。**

在宅避難 推奨

港区が全戸配布している **携帯トイレ 使用方法**

「明日のために、学ぶ Learn For Tomorrow」

用意するもの

- 携帯トイレ(便袋+凝固剤)
- ポリ袋(70L程度)
- 養生テープ
- ゴミ箱(一時保管用)

STEP 1 STEP 2 STEP 3

STEP 4 STEP 5

完了

作成: 港区芝浦港南地区総合支所協働推進課
協力: 港南防災ネットワーク

